

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2005年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 コミュニティ福祉学 研究科 コミュニティ福祉学 専攻		
指導教員	所属・職名	氏 名	
	コミュニティ福祉学部・教授	福山 清蔵	印
自然・人文の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/>	個人・共同の別	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 共同 名
研究課題	被虐待児の援助者へのグループ心理コンサルテーションの機能とプロセスに関する研究		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
	コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学・博士課程後期課程2年	加藤 尚子	印
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
研究期間	2005 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、臨床心理学と社会福祉学をカバーするものである。両学問分野の中間領域に位置する研究であり、心理コンサルテーションという援助技術に関する研究の一部をなす。

本研究では、児童養護施設で働く虐待を受けた子どもを援助するケアワーカーらに対するグループ心理コンサルテーションの機能とそのプロセス、及びグループ心理コンサルテーションの効果を明らかにすることを目的とする。

心理コンサルテーションの形式は研修、ケース中心など様々にある。本研究では、その中でもとりわけ現場においてもっとも一般的に行われており、心理コンサルテーションの導入としてもよく用いられる、グループコンサルテーションに注目し、そこにおいて果たされている機能と進行プロセスを明らかにする。特に「サポート機能」と「相互関係への焦点づけ」が、どのようなプロセスの中で行われるのかを明らかにしたい。そして、その事前・事後に、ケアワーカーらコンサルティの疲労度の変化を測ることにより、グループ心理コンサルテーションの効果を測定する。この結果を、研究者が平行して行っている、個別コンサルテーションとの比較において検討することで、心理コンサルテーションの方法が、より具体的に明らかになるものと期待する

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[心理コンサルテーション] [虐待を受けた子ども] [児童養護施設]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、虐待を受けた子どもの援助者への総合的な心理コンサルテーションモデルを構築することも目指して、虐待を受けた子どもの援助特有のストレス、グループ心理コンサルテーションの機能とそのプロセス、心理コンサルテーションの方法(介入技術)が明らかすることを試みた。

計 17 回のグループ心理コンサルテーションの場面を記録し、その逐語における発言内容の分類から、グループ心理コンサルテーションの機能とプロセスについて検討した。その結果、①コンサルティである虐待を受けた子どもを生活場面で援助するケアワーカーの困難要因、②グループ心理コンサルテーションの機能、③虐待を受けた子どもの援助職への心理コンサルテーションのモデル、④援助的介入プロセス、を明らかにした。

① コンサルティである虐待を受けた子どもを生活場面で援助するケアワーカーの困難要因

カテゴリー 1 : 養育実践上の特質に関わる困難

- ・ 職務遂行上、素の自分や感情を用いることが必要であること
- ・ 仕事とプライベートの切り替えがしにくいこと
- ・ 自分自身について考えさせられること

カテゴリー 2 : 虐待を受けた子どもとその援助の特質に関わる困難

- ・ 援助実践上、巻き込まれることが必要となること
- ・ 自分自身の感情への対処をしなければならぬこと
- ・ 二次的トラウマティックストレスを被る危険性が高いこと
- ・ 子どもが向ける激しい感情に対処していかなければならぬこと

カテゴリー 3 : 養護システム・環境に関わる困難

- ・ 養護技術が理論化されていないこと
- ・ 教育の不足(専門的な心理学的知識が十分に得られない)
- ・ サポートの不足
- ・ 労働環境の過酷さ

② グループ心理コンサルテーションの機能

- ・ 困難の内容、具体的対処方法の発見
- ・ 虐待を受けた子どもの心理特性に関する知識の提供
- ・ 巻き込まれによって生じている事態と、感情の整理
- ・ 評価によるエンパワーメントと自信の回復
- ・ 疲労感情へのケア
- ・ 心理療法における治療効果の促進

③ 虐待を受けた子どもの援助職への心理コンサルテーションのモデル

形態モデル

- ・ クライアント中心のケースコンサルテーション コンサルティ中心のケースコンサルテーション
- ・ コンサルティ中心の課題コンサルテーション
- ・ 研修型コンサルテーション
- ・ システムコンサルテーション

機能モデル

- ・ エンパワーメントモデルコンサルテーション
- ・ サポートモデルコンサルテーション
- ・ プロセスモデルコンサルテーション

④ 援助的介入プロセス

場への介入プロセス

1. 基本的社会性に基づく信頼を構築する段階
2. 施設風土・支援風土を学び馴染む段階
3. 2. と並行して、心理臨床家の力量を示し、専門家としての信頼を得る段階
4. コンサルティ中心の課題コンサルテーションやエンパワーメントモデルコンサルテーションなどを実践できる段階

心理コンサルテーションの進行プロセス

研究成果の概要 つづき

- ・深いレベルの課題に対するコンサルテーション
 1. 対話による情報の整理
 2. 感情を伴った、疲労感や困難感の表現
 3. コンサルタントの受容
 4. 客観性、ゆとりの回復
 5. 問題の焦点化
 6. かかわりの見直し、再評価、意味付けと整理
 7. 新たなかかわり・方針の検討・策定
- ・浅いレベルの課題に対するコンサルテーション
 1. 対話による情報の整理
 2. 問題の焦点化
 3. 客観性、ゆとりの回復
 4. 問題の焦点化
 5. かかわりの見直し、再評価、意味付けと整理
 6. 新たなかかわり・方針の検討・策定